

経済・政治・行政

東南アジアの 自動車リサイクル事情

経営コンサルタント・西川幸孝

(下)

利用しにくかったフロン、エアバッグ、破砕くずの回収・処理を義務付けられ、消費者がその費用を負担する。現在約80%といわれる車のリサイクル率を、2015年には95%に高めるのがその目標である。この法律は、自動車リサイクル部品市場は約1000億円で言われているが、数年後には1500億円

広がるビジネスチャンス

自動車リサイクル部品の流通にも大きな影響を与えている。市場が拡大する

日本では、自動車リサイクル法が今年1月1日からスタートした。自動車会社や輸入業者は、再

利用しにくかったフロン、エアバッグ、破砕くずの回収・処理を義務付けられ、消費者がその費用を負担する。現在約80%といわれる車のリサイクル率を、2015年には95%に高めるのがその目標である。この法律は、自動車リサイクル部品市場は約1000億円で言われているが、数年後には1500億円



吉田社長、筆者、ラジャ社長

今後さらに減少すると見込まれている。

一方で、ビジネスチャンスも大きく広がっている。海外取引もその一つである。処理費逃れの違法な輸出も現実にはあり、大きな問題になっているケースもあるが、国際規模での健全なビジネスも確実に定着してきている。法制度を守りモラルを堅持しつつ、こつこつとビジネスチャンスをとらえていく起業家精神が求められている。

(西川プランニングオ
フィス代表)